

実際私たちは経験したわけではなけれど、自然災害の怖さを知りました。私は神戸出身なので毎年阪神・淡路大震災について授業をしていてのが、今回受けた授業と少しちがっていたので、新しい視点で学ぶことができたので良かったです。クラスにはあまり震災に関わっていない地域の人もいて、「幸せ運べるように」を知らない人もいてびっくりしました。震災から時間がたつてくると、忘れかけられるようにも感じました。神戸で起きた出来事をこれから新しく育つ人たちに伝えていくべきだと改めて思いました。今こゝに神戸の町があることは、全国の人々の支えがあったり、その当時においた人の頑張りが、いつ南海トラフが来て、神戸の町がくずれしてしまうか分からないので、今回に起きた事を伝えていて、また同じようにたくさんの命がうばわれるように、伝えていけたらいいと思います。貴重な授業をしていただき、ありがとうございます。

その日の流れをドラマで見ると理解できました。実際には私たちがまだそんなに大きな自然災害を経験したとはないけど、今後起こるかもしれない大地震にそなえてしっかり対策しないといけないと思います。

阪神淡路大震災が今通っている学校がある神戸でこんなことがあったとは思ってはいくらいいにしても復興していて、人々の立ち直ろうとする姿をいいと感じました。目で見えるものは復興して震災のあとが残ってないけど、それを伝えていけないから、しっかり語り継いでいかなければならないと思います。たくさんの人の命が奪われたという現実を忘れないでほしいと思います。最後に、今回についてくれる人や家族は大切にしようと思います。

地震のおそろしさを再にも感じました。いっせいの日の中に急に地震
かかると思うとすくなく怖いと感じました。107ポイントで
動画や写真、実体験などを使ってリアルを知れたことは本当に
貴重なことだと思いました。地震は人工物は一瞬にして壊
れてしまい、地震の力はすごいと思った。地震でこわされて
しまった道や建物、ましては人の心はすぐに治すことができ
ない。それを治すには、たくさんの人の力が必要だと思いました。
人は人で生きていけない、人と人は協力し合わなければならな
いと考えた。いつ地震が起きたとしても対応できるように
防災バックや、みんなが「はやく」なかにんをしておこうと思ひました。

阪神淡路大震災による被害は今思うと信じられずにはじきながらここに開きま。経験し
た人から話をきいてきました。が当時の復興作業に自分の遠い先輩方も協力して
いたことを知り。そういた自分のためではなく他の人のために動いていてここに人
としての憧れを抱きま。その年はこの神港学園は春の全国大会に出場すること
が決まっていた。その中でも練習する時間をボランティアに費やし残りの少
ない時間で練習というわけでもなく疲れることだと思ひ、同時にすこいと思ひ
ました。

阪神・淡路大震災が起こった当時の写真やそれを題材にしたドラマを見て、この震災の記憶が風化されないように、経験していない私たちが当時のことを語り継いで、将来起こる災害に備えていくことが、とても大切だと思いました。インタビューを受けて、自分の阪神・淡路大震災に対する思いを述べて、私たちの世代がこの震災について言及することがすごく大切だと思いました。故郷である兵庫県のために、自分にできることをしたいです。

現代社会 阪神淡路大震災 特別授業を受け、自分が生きた前の方が

空体験や、実際の写真や映像、再現ドラマを聞いたり見たりして、どれだけの被害があったのかを

よく分かりました。

東日本大震災の時は、強い火災の被害がとても大きかった。高速道路が

倒れたことが多く、改めて被害の大きさを感じました。

自分が住んでいる場所で起きた大震災なのに、おれにこの震災について

知らなかったことが多くあると分かりました。

この震災を忘れないためにもこの大震災について知り、

伝えていくことが大切だと思いました。

自分は阪神淡路大震災を経験してはいないけど、今日の授業を受けて、改めて地震の怖さを知りました。今、大きくて高い建物がたくさんあっていて、この地震の時は、大きな建物でも横にたおれてしまったり、つぶれたりしていたから、常に地震が今起きたらどこに逃げるかどこに行ったら安全かを考えておこうと思いました。地震と同時に火災が起きて、燃え広がり、それで亡くなった方もいると知ったので、もし地震がきた時は、火はすぐ消して、第2の被害を防げるようにしたいです。自分たちはこれから生きていくなかで、南海トラフ大地震が起きると言われているけど、これは阪神淡路大震災の時とは違い津波がくるから、できるだけ高い建物に逃げたり、家族で、どこに逃げるかを話し合ったりして、この阪神淡路大震災の経験を生かしていけるようにしていきたいです。また、自分はこの話を聞いて、地震の怖さを知ったので、これを自分たちだけで終わらすのではなく、地震のことを知らない人たちに、伝えていけたらいいなと思いました。

地震は突然くるのが、いつくるかわからないし、何をしたらいいかわからない。阪神淡路大震災のようになんか大きなものかかわからないし、小さいものかわからない。毎年1.17の日にはテレビで流れてくるのを見るたびに胸が痛くなる。たくさんの方が亡くなり、行方不明になり、1人が死んだといふ人な思いをしていて、いまでも家がたない方なとかがいるとも聞く。たくさんは思いをしている人の努力はムダにはしてはいけないと思う。自分たちが生まれる前のことを語りついでに聞いているし、嫌な過去を話さずにと忘れたいようにして聞かせる。だからこそ私たちがその努力を無駄にしないといけないといっているし、伝えていかなければならない。おれ、同じようなことがあってもすぐに避難できるように、家族と合流できるように家族と相談したりして、過去の経験がムダにはならないように生かしていきたい。

阪神淡路は自分住んでないから分かってないけど神戸に住んだ以上は
知る必要があり、これを勉強してみたら27年ぶりに復興していることが

おどろき、これに人が入ってくれた人がすごいなと思います。

映像を見て あそこがすごいとは思っていてもいざからたし、町とか道路
とかぐらぐらに倒れてたところの人が泣いていて、経験してない
からわからなかったけど映像を見ただけでも悲しくなりました。

今でもいつ地震が起きるか分からないし阪神淡路以上。

ものが起きるといわれているから今からそれに備え家族とかで
もし地震が来たときに集合する所というのを決めておくことも

大切だなと改めて思いました。

自分の生まれた町が神戸なので地震について学ぶ機会がたくさんありま
した。人と防災未来センターが近くにあるので中学生の時に防災Jr.という活動
に参加するなど自分で地震の意識が早く持てました。

そこから地震という怖さを知ったよりのこの授業だったのが改めて
知ることができました。なので自分にとってこの授業はじめて学ぶ一時間
だったと思いました。

今回の惨害を受けて改めて阪神淡路大震災の規模の大きさと地震の怖さをおもひさせられました。地震はいつ起こるかわかりません。だからこそ常日頃から防災対策が必要であると思います。

また、本地震のみならず、かこの地震で亡くなった先人達のことを思えば、多いつたというこの大切さも、改めて感じました。そして、先人達に習って、これから地震に向けて被害を最小限におさえる工夫を個人として行っていくことも思いました。

この為に、防災バナーを用意しておく、非難場所とルートを確認しておく等が大切です。そして、各々が協力し合い支援をすることもまた大切だと思われました。本地震程の被害が出ないことを祈りたいと思います。

阪神淡路大震災について授業していただきありがとうございます。自分自身大きな地震は未だ経験したことがないですが、実際に起こった時の恐怖心や不安感など自分の想像を越えるものなんでしょうかと思いました。震災の時に、新聞を必死にみんなの元に届けるために、会社同士が協力していたことを初めて知りました。その他にも、空が異常に明るかったり揺れが大きくて窓なども割れておたり、火事が起こってしまったことも分かりました。

もし、自分の近くで震災が起こった時に、適切に対応できるように、もと震災について調べたり、家族で避難場所などを話しあおうと思います。